

絆

K I Z U N A

2020 APRIL

JAグループ青森 月刊広報誌 [880号]

4



「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは JA へ
購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<https://www.agrinews.co.jp>

知る、活かす、つなぐ～JAグループ情報共有運動



"Ienohikari"
家の光

5月号で

は創刊**95**周年

これからも JA と地域のみなさんの役に立つ
食と農の耳寄り情報をお届けしてまいります!

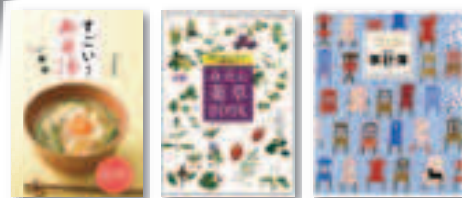
いま
“知りたい”



暮らしの旬のテーマを取り上げます

創刊95周年記念

今年の5・9・12・1月号は、別冊付録2冊付き!



年6回は
別冊付録付き



食と農 暮らし 協 同 家 族

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

家の光

定価(税込) ●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
●家計簿付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町 11
TEL.03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>



J Aグループ青森実践2年度目の取組みに向けて

～J Aグループ青森として確実に「小さな1（イチ）」を足していこう！～

日頃より、J Aグループ青森月間広報誌「絆」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。
 広報誌「絆」は、平成23年3月「東日本大震災」が発生した約1年前の平成22年4月に名称を「J Aあおもり」から変更し、10年経過いたしました。10年という一つの節目を迎えたこともあり、このたび、誌面構成や内容を一部刷新することといたしました。

引き続き、J Aグループ青森の農業・農政に対する取組みを情報発信してまいりますので関係者・関係団体におかれましては、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、令和2年度を迎えるにあたりすばらしい本を読む機会がありました。その本は「セールスのこころ12カ月：ホリエモンの本」というタイトルで著者は堀江貴文氏です。

本の中で彼は、「人が新しい一歩を踏み出そうとするとき、そのスタートラインにおいては誰もが等しくゼロなのだ。『掛け算』でなく、ゼロの自分に小さな1（イチ）を足していく『足し算』でなければならない。ゼロになにを掛けてもゼロであり本当の成功とはそこから始まることを確認しておかねばならない」と述べています。

J Aグループにとって昨年は、5月末に政府が定めた農協改革集中推進期間が終了し、9月30日、全中が一般社団法人に移行すると同時にJ A青森中央会も新たな一歩を踏み出しました。

このような中、我々J Aグループの事業基盤である「農業・農村」を取り巻く情勢は、慢性的な労働力不足に加え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等もあり、依然として先行き不透明な状況にあります。

令和2年度は、厳しい環境下の中、「第28回J A青森県大会」で決議した取組事項の実践2年度目として、当面政府から求められている「改正農協法5年後検討条項」への対応は勿論、信用事業、経済事業の収支改善を中心とした「持続可能なJ A経営基盤の確立・強化」の取組みや「労働力確保対策」等、決して慌てることなく、一步一步「小さな1（イチ）」を足していくことで、確実に成果があげられるよう、改めてJ Aグループ青森が一体となった不断の取組みが求められております。

4月は、卯月（うづき）ともいい、風物が全て生氣溢れる季節とされています。年度の始まりにあたって改めて、希望ある未来の農業、J Aグループの姿に胸を膨らませ、確実に一步一步取組むという気概を持ち、元気に、そして、爽やかに、スマートに取組みましょう。



J A青森中央会

絆 4 目次 CONTENTS

メッセージ	1	組織農政通信	20
特集	2	東北農政局通信あおもり	22
フラッシュ	6	輝き	23
インフォメーション	8	自慢の逸品	23
経営の窓口	18	みりよく発信	24

実践 農業者支援

「青森県JA農業労働力支援センター」開設 ～一人でも多くの働き手確保に向けて～

JA青森中央会

1 青森県JA農業労働力支援センター開設の背景

本会では、各JAと連携を密にし、農業分野の労働力確保対策に取り組んでいくため、本年2月3日に「青森県JA農業労働力支援センター（以下、農業労働力支援センター）」を立ち上げた。

（1）少子高齢化が続く

少子高齢化が続いている中、10年後には約3人に1人が65歳以上になると予測されている。

また、出生数も2016年には100万人を下回り、2019年にはさらに減少し90万人を割り込んでいく。

（2）他産業においても人手不足

労働人口の減少に加え、労働環境・条件や低賃金などにも起因し、運輸、医療・福祉、飲食サービス、建設業において深刻な労働力不足となっており、人材獲得競争が激化している。

（3）JA無料職業紹介所の状況

現在、県内9JAで無料職業紹介所を開設しているが、求職者の絶対数が少ないため、マッチング率も決して高くなく、求人（農家）に対し約6割がマッチング未成立となっている。

マッチング未成立の主な理由は①求人と求職者との希望する勤務日、時間の不一致②圃場までの移動手段がない、距離的に遠すぎる③求人と求職者との希望する品目の不一致④求職者が想像していた作業と実際の作業の不一致⑤求職者が高齢であるため⑥他の農家とのマッチングが既に決まったためとなっている。

求職者情報を多く収集すること、マッチング未成立情報の他JAへの展開が喫緊かつ重要課題であると認識している。（表1）

（4）農業労働力支援センター設立

農業労働力支援センターを本年2月3日に開設、専任職員の配置により、労働力確保に向けた業務に専念・特化し、一人でも多く農作業のお手伝いをしていただける方をJAに紹介する。県域で無料職業紹介事業を実施することにより、JA無料職業紹介所においてマッチングできなかった求職者情報を、他JAに紹介する等の職業紹介所間の連携により、JAおよび県全体のマッチング率の底上げを図っていきたいと考えている。

あわせて、JA准組合員等地域住民に対し、短期農作業のサポートを呼びかけ、「農業応援隊」に加入していただき、必要の都度優先的に

表1 年度毎の求人、求職者、マッチング数

（単位：人）

平成29年度			平成30年度			令和元年度			3カ年合計		
求人	求職者	マッチング数	求人	求職者	マッチング数	求人	求職者	マッチング数	求人	求職者	マッチング数
99	73	48	211	165	105	262	174	94	572	412	247

（注1）平成29年度・30年度は5JA分

（注2）令和元年度9JA分、1月末までの実績

※いずれもJAからの聞き取り結果

求人を紹介する仕組みづくりを進める。

2 農業労働力支援センターの業務

(1) 県域での無料職業紹介事業

- ①各JA無料職業紹介所でマッチングできなかった求職者情報の他JAへの紹介（職業紹介所間の連携）
- ②JA域または県域を越えた農作業の繁忙期を活用した求人と求職者のマッチング
- ③新聞、チラシ、SNS等による求職者募集
- ④「農作業体験会」の企画・実施
- ⑤他団体が開催する「仕事説明会」へ参加し、具体的な仕事内容や働き方の説明
- ⑥農業理解の促進と雇用する際の経験知とするための援農ボランティアの継続実施
- ⑦労災加入、賃金関係等、雇用環境に合わせた農業者の意識変革

(2) 人材派遣会社と連携した人材派遣の活用

- ①人材派遣会社との業務提携
- ②JAからの人材派遣の受付と人材派遣会社への依頼
- ③センターによる人材派遣業務実施の検討

(3) 監理団体と連携した外国人材の活用

- ①監理団体との業務提携
- ②外国人技能実習生（農協請負方式）受入の

相談対応と監理団体への依頼

- ③特定技能制度活用の具体化
- ④センターによる監理団体業務実施の検討

(4) 農業求人サイト「あおもりの農作業の上手い人たち」の活用推進とPR

- ①求人情報を増やすための啓蒙活動
- ②当該サイトの認知度アップのPR活動

(5) JA准組合員等による「農業応援隊」募集・登録の仕組提案・活用

「准組合員」、「年金友の会会員」等、また、今後、関わりを持ちたい「近隣の主婦」、「地元大学生」、「農作業体験会や仕事説明会で働く意思を示した人」等を短期農作業従事者「農業応援隊」として組織化、登録をしていただく仕組みをつくり、農家組合員からの求人条件とマッチングを行う。

3 JAと農業労働力支援センターの役割分担

JAと県段階が機能と役割を分担し、各々やるべきことを確実に遂行することで労働力確保対策が実を結ぶものとする。（表2）

農業労働力の確保に向けて、まだ一步を踏み出したにすぎないが、考えられる方策を一つ一つ確実に実践し、農家組合員の労働力不足に対する一助につなげたい。

表2 JAと農業労働力支援センターの役割分担

JAの役割	農業労働力支援センターの役割
<p>(1) 県域での無料職業紹介事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①求人、求職者、マッチング情報を農業労働力支援センターへ報告（月次） ②農業応援隊の加入に関する情報を農業労働力支援センターへ報告（随時） ③農業応援隊の加入推進をはじめとした求職者募集 ④「農作業体験会」の実施と参加者からの意向確認 ⑤「仕事説明会」への参加と参加者からの意向確認 ⑥援農ボランティアの受入れ ⑦新卒者や企業等退職者に対する就農の呼びかけ ⑧農業者に対する雇用意識変革の啓蒙 	<p>(1) 県域での無料職業紹介事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①農業応援隊等の働き手情報の集約・活用およびJAでマッチングできなかった求職者情報の他JAへの紹介（随時） ②JA域または県域を越えた農作業の繁忙期を活用した求人と求職者のマッチング協議（随時） ③他県からの求職者情報の収集 ④農業応援隊の加入をはじめとした求職者募集のための広報（新聞、チラシ、CM、SNS等）企画 ⑤「農作業体験会」の開催企画 ⑥「仕事説明会」への参加内容企画 ⑦援農ボランティア等の援農システム構築と実施 ⑧長期労働力を目的とした新卒者や企業退職

J Aの役割	農業労働力支援センターの役割
	<p>者に対する就農の呼びかけ</p> <p>⑨農業者に対する雇用意識変革のための資材作成</p> <p>⑩農業求人サイトの管理</p>
<p>(2) 人材派遣会社と連携した人材派遣の活用</p>	<p>(2) 人材派遣会社と連携した人材派遣の活用</p>
<p>①組合員からの人材派遣の受付と人材派遣会社もしくは農業労働力支援センターへの依頼</p>	<p>① J Aからの人材派遣の受付と人材派遣会社への依頼</p> <p>②業務提携する人材派遣会社の選定、協定内容や役割分担の検討</p> <p>③人材派遣業務実施に向けた検討</p>
<p>(3) 監理団体と連携した外国人材の活用</p>	<p>(3) 監理団体と連携した外国人材の活用</p>
<p>①外国人技能実習生（農協請負方式）受入と管理</p> <p>②特定技能制度活用の検討</p>	<p>①外国人技能実習生（農協請負方式）受入へ向けた相談対応・調整</p> <p>②特定技能制度活用の検討</p> <p>③業務提携する監理団体の選定、協定内容や役割分担の検討</p> <p>④監理団体業務実施に向けた検討</p>
<p>(4) 農業求人サイト「おもりの農作業の上手い人たち」の活用推進とPR</p>	<p>(4) 農業求人サイト「おもりの農作業の上手い人たち」の活用推進とPR</p>
<p>①農業求人サイトへの求人情報の入力</p> <p>②農業求人サイトのPR活動（求職者募集ポスターの活用）</p>	<p>①農業求人サイトを活用した求職者情報の収集と J Aに対する情報の提供</p> <p>②農業求人サイトのPR活動（求職者募集ポスターの作成）</p> <p>③農業求人サイトのPR活動の企画（新聞、チラシ、CM、SNS等）</p>
<p>(5) J A准組合員等による「農業応援隊」募集・登録に関する仕組み提案・活用</p>	<p>(5) J A准組合員等による「農業応援隊」募集・登録に関する仕組み提案・活用</p>
<p>①農業応援隊組織化の体制整備</p> <p>②准組合員等・近隣の主婦等に対する農業応援隊加入アプローチ</p> <p>③農業応援隊の募集と登録</p> <p>④求人情報に基づき「農業応援隊」のメンバーに対し、SNS等で働き口紹介</p> <p>⑤求人と「農業応援隊」のメンバーとの面接</p> <p>⑥農作業終了後、「農業応援隊」のメンバーに対する「継続意思」の確認</p> <p>⑦近隣 J A管内で勤務、紹介が可能な「農業応援隊」メンバーを農業労働力支援センターへ報告</p>	<p>① J Aでの農業応援隊の組織化に向けた体制整備支援</p> <p>②准組合員等・近隣の主婦等に対する農業応援隊加入アプローチ方法検討</p> <p>③農業応援隊の募集企画</p> <p>④雇用、労災に関する研修会開催</p> <p>⑤近隣 J A管内での勤務、紹介が可能な「農業応援隊」メンバーを他 J Aへ紹介</p>



青森県立柏木農業高等学校
生活科学科 齋藤末羽さん

青森県農業のために、あなたの力をぜひ貸してください！

農作業のお手伝い

できる方

募集



詳しくは、ま・ら・ぶ・じをご覧ください。

青森県農業労働力求人マッチングサイト

検索



フラッシュ

JA青森



青天の霹靂生産者部会 通常総会 (3/19)

JA青森青天の霹靂生産者部会は、JA営農経済本部にて令和元年度通常総会を開催した。

開催にあたり鹿内一郎部会長は「JA青森では生産面積の減少となってしまったが、各指導機関の協力を得て、ブランド米の評価を落とす事のないよう安心安全な青天の霹靂の栽培に取り組みましょう」と挨拶した。

JAつがるにしきた



津軽北部統括支店 新事務所建設で地鎮祭 (3/11)

JAつがるにしきたは、新築する津軽北部統括支店新事務所の地鎮祭を建設地の中泊町で行い、JA役員や工事監理施工業者ら約30人が出席した。長内組合長は「津軽北部統括支店の新事務所は組合員、利用者が完成を心待ちにしている。十分安全に配慮し、工事を進めていただきたい」とあいさつ。完成は今年9月を予定している。

JAごしよつがる



「青天の霹靂」栽培・出荷基準説明会 (3/5)

JAごしよつがるは、「青天の霹靂」の生産者を対象に生産・出荷・販売等について説明会を実施。生産者は昨年「青天の霹靂」を生産して疑問に思ったことなどを質問しながら、良質・良食味米の生産に向け理解を深めた。

JAつがる弘前



「支店だより」最優秀賞決まる (3/23)

JAつがる弘前は、本店で「支店だより審査会」を初めて開き、15支店の中から、最優秀賞に目屋支店が選ばれた。

常勤役員・参事が審査員となり、1年間に各支店で発行した「支店だより」を、親近感、デザイン、記事の内容、の3項目で評価。最優秀賞に選ばれた目屋支店は、時期に合わせた情報などを、写真やイラストを用いてわかりやすくデザインしていた。そのほか優秀賞には岩木支店が、優良賞には船沢支店が選ばれた。

JA相馬村



直売所リニューアルオープン

客足予想以上に好スタート (3/20)

JA相馬村は、直売所「林檎の森」をリニューアルし、20日にオープンした。リニューアルした店内は195.82平方メートルと、以前よりも約20平方メートル広くなった。

陳列棚も低く配置したことで店内全体が見渡せ、商品も選びやすくなった。直売所のリニューアルを楽しみにしていた来場者は「以前より売り場が広がって商品が見やすく、買い物がしやすくなった」と喜んでいた。

JA津軽みらい



昔から伝わる貯蔵方法でりんごPR (3/16)

JA津軽みらいりんご部会山一支部の役員4人は、山形支店管内にある山一農産物集出荷施設で敷地内の雪の中に埋めて冬越させた「雪室りんご」を掘り起こす作業を行った。雪室りんごは昔から伝わる貯蔵方法で5年前に黒石りんごをPRするために実施し、好評だったことから毎年行っている。役員は「自然の状態で保存したおいしい雪室りんごを多くの方に食べてほしい。また、今後も雪室りんごを継続していきたい」と話した。

JA十和田おいらせ



建築工事いよいよスタート

ファーマーズ・マーケット10月オープン目指す (3/26)

JA十和田おいらせは、ファーマーズ・マーケット「かだあ〜れ」の新築工事安全祈願祭を建設予定地の十和田市三本木里の沢で行った。JAファーマーズとして、県内最大級の売り場面積を予定し、9月末の完成を目指す。

竹ヶ原組合長は「安全で新鮮なおいしい食を提供し、農家所得の増大と地域貢献につなげたい。多くの観光客にもアピールし当地区の魅力を発信する施設にしていこう」と述べた。

JAゆうき青森



エコクラフトバック作成に挑む

女性部手芸講習会 (3/9)

JAゆうき青森女性部野辺地支部は、野辺地支店で手芸講習会を開いた。支部員14名がエコクラフトバックの作成に挑んだ。エコクラフトバックには、牛乳パックなどを再利用した丈夫なクラフトバンドと呼ばれる素材を使用し、編みこんで作成する。参加者は「難しいが、やりがいがある。思わず熱中してしまう」「使うのが楽しみ。他の編み方にも挑戦したい」と話した。

JAおいらせ



営農座談会

高品質生産への栽培ポイントを呼びかける (3/6)

JAおいらせは5日、6日の2日間、三沢市内のべ16カ所のでJA営農部と上北地域県民局農業普及振興室三沢分室との営農座談会を開いた。営農担当者は「良いものを作ることで農家所得の確保につながる」と、各品目の高品質生産に向けた栽培ポイントを説明。参加した組合員はニンジンの作付やゴボウの販売動向、ナガイモの高品質生産について質問していた。

支店を新築 オープニングセレモニー開催 (3/16)

JA八戸は、南部町相内に南部支店を移転新築オープンした。新支店は、同町にあったこれまでの南部支店と名川支店を統合。

営業開始に先立ち竣工式が行われ、建物の末永い安全を祈った。山美喜正組合長は「支店再編により業務の高度化と専門化に取り組み、さらなる顧客満足度の向上を図り、組合員及び利用者の負託に応えられるよう一層の努力を重ねる」と挨拶した。

JA八戸



県選出国會議員へ対策要請

猛暑などの異常気象や、新型コロナウイルス感染症拡大などによる農産物への影響を鑑み、JA青森中央会と青森県農協農政対策委員会は3月23日、津島淳衆議院議員に対し、野菜価格安定制度の堅持と、新型コロナウイルス感染症拡大の影響緩和対策の実施および収束に全力を挙げてもらうよう要請した。

本県主力野菜の2019年産の販売価格は、他産地も豊作であったため低迷した。ナガイモ、ニンニクは回復基調にあるが、ゴボウは依然として大幅に低迷している。このため「野菜価格安定制度」の堅持と、同制度への財政支援を政府に働きかけることを求めた。

さらに、担い手・労働力不足、農地の減少など、生産基盤の弱体化が止まらない状況の中、国産農畜産物の安定供給を確保し、持続可能で豊かな食生活を守るため、次期「食料・農業・農村基本計画」の着実な推進を図ることや、准組合員の利用規制のあり方について「農協組合員の判断に基づくものとする」との自民党の参議院選挙公約を遵守するよう求めた。



▲津島議員（右から3番目）に要請書を手渡す阿保直延会長（左から3番目）

労働力支援、JA経営基盤の強化へ

JA青森中央会は3月27日、青森市の県農協会館で臨時総会を開き、令和2年度の事業計画を決めた。第28回JA青森県大会決議の実践2年度目として、さらなる自己改革への取組みを支援するため、担い手の育成・確保や労働力支援、JA経営基盤の強化対策に力を入れる。

特に、重点実施事項「元気な農業へ発進」の取組みとして、2月に設立した「青森県JA農業労働力支援センター」による県域での無料職業紹介事業の実施や、監理団体と連携した外国人材の活用などを進める。

阿保直延会長は「労働力確保対策として、農家が求める働き手確保への取組みを進める。経営基盤の確立・強化対策は自己改革の実践を支えるものであり、その安定と強化は欠かせない。総合事業を継続し、JA経営の持続性を確保するため、各連と連携し支援していく」と述べた。

総会前に全中功労表彰の伝達を、JAおいらせの沖澤繁弥組合長へ行った。

総会後には記者会見を開き、JA青森中央会、JAバンク青森、JA全農あおもり、JA共済連青森、JAアオレンが令和2年度の事業計画などについて説明。JAグループとしての新型コロナウイルスへの対応や、県産農畜産物への影響などについて質問が出た。



▲功労表彰（緑綬）を受賞した沖澤組合長（中央）

行事（4/10～5/10）

4月

- 15日 新採用職員研修会（青森地区）
（教育研修所）
- 20日 定例理事会（県農協会館）
- 20日 県女性協通常総会（県農協会館）
- 24日 給与担当初任者研修会（教育研修所）

令和2年度 JA青森中央会配置図（令和2年4月1日付）

代表理事会長 阿保直延

副会長理事 酒井一由

常務理事 小山主税

株農協電算センター	
専任審議役	小 舘 一 浩
専任考査役	棟 方 渉

総務企画部	
部長	中 澤 裕
次長	小 島 睦 男
考査役	中 村 郁 生
総務課	企画管理課
課長	課長
新 谷 優	山 田 潤
審議役	調査役
坂 本 公 利 (全共連県本部より出向)	小 枝 憲 子
木 村 真 大 (全農県本部より出向)	山 内 麻衣子
山 形 麻 美 (全農県本部より出向)	山 田 真佐子 (嘱託)
小 松 宏 之 (嘱託)	
佐 藤 和雅子 (派遣)	

みのり監査法人	
専任審議役	高 村 司
専任副審議役	西 村 健
専任考査役	渡 辺 信 義
副調査役	木 村 稔 喜
	新 保 俊 彦 (嘱託)
	中 田 拓 彦 (嘱託)

農業対策部	
部長	松 澤 秀 治
	葛 西 美 雪 (嘱託)
農業支援課	組織農政課
課長	課長
阿 保 潤 司	蒔 苗 文 彦
考査役	副審議役
吉 田 裕 一 (全農県本部より出向)	山 田 久 雄
考査役	副調査役
泉 谷 勝 明 (全農県本部より出向)	工 藤 咲 美
考査役	舛 舘 花 林
石 田 隆 徳 (全農県本部より出向)	三 上 賢 悦 (嘱託)
副調査役	
木 村 友 子	
武 田 健 吾	

経営対策部	
部長	野 呂 文 人
次長	秋 田 弘 行
専任副審議役	一 戸 和 雄 (津軽地区JA担当)
専任調査役	平 田 佑 介 (県南地区JA担当)
経営企画課	教育研修課
課長	課長
田 村 幸 一	谷 亮
考査役	林 和 也
相 馬 崇 志	一 戸 誠 (嘱託)
佐 藤 悠	小 関 順 子 (嘱託)
工 藤 有 香	村 元 知 美 (派遣)
西 舘 佳 加	
成 田 真 一 (嘱託)	
市 川 陽 子 (嘱託)	



JAカード新規ご入会特典がさらにお得に！

JAバンク青森では、2019年12月からJAカード株式会社と連携し「JAカード新規ご入会キャンペーン」を実施している。

本キャンペーンでは、これまでも最大6,800円相当のポイントプレゼントを実施してきたが、新年度から特典をリニューアルし、最大で10,000円相当のポイントをプレゼントする。

お得感がアップした「ご入会サックスプレゼント」の詳細は次のとおり。

お問い合わせは、最寄りのJA窓口またはJA渉外担当者まで。

【取扱期間】

2020年4月1日～2021年3月31日

※ 基準日は、申込日ではなく、JAカード送付時の「カード送付明細」に記載の日付（入会日）

【対象者】

期間中、JAカードに新規でご入会された方

- ※ 新規入会カード1枚毎にキャンペーン登録可能（本人カード、家族カードそれぞれが対象）
- ※ 家族カードは、本人カード1枚につき最大3枚まで申込可能。

【特典】

JAカード入会月から3か月間を対象期間として、

- ①WEBサービスのID登録で300ポイント（1,200円相当）
- ②ショッピングご利用金額に応じて250～2,000ポイント（1,000～8,000円相当）

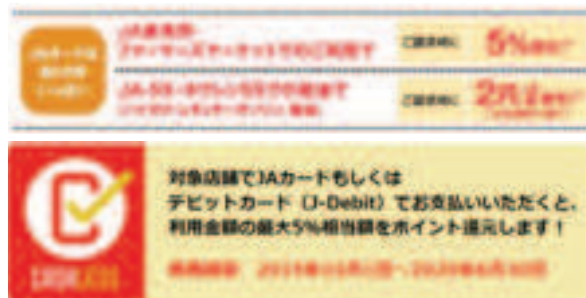
をプレゼントするもの。

- ※ ただし、次のいずれかでキャンペーンへのエントリー登録が必要。
 - ・WEB会員サービスの「Net Branch」から登録
 - ・コールセンターへの架電により登録

ショッピングご利用金額	プレゼントポイント数
2万円以上	250ポイント (1,000円相当)
5万円以上	1,000ポイント (4,000円相当)
10万円以上	1,500ポイント (6,000円相当)
20万円以上	2,000ポイント (8,000円相当)



さらに！



新型コロナウイルスへの緊急資金対応開始

JAバンク青森では、新型コロナウイルスによる農畜産物の減収被害等への資金対応を開始した。

借入金額の上限は500万円で、借入期間は5年以内。JAグループ青森が最大1.0%まで利子助成を行う。

また、既に借入している資金に関する条件変更の相談も受付している。

お問い合わせは、県内各JAまたは農林中央金庫青森支店まで。

令和2年度 農林中央金庫青森支店配置図 (令和2年4月1日付)

支店長 錠 理一

副支店長 平山 基之					
コーポレートサービス班			営業第一班	営業第二班	
(総務：017-762-4400)		(窓口：017-762-4407)	(系統決済：017-762-4409)	(017-762-4403)	(017-762-4404)
次長	小倉 庸幸	次長	秋田谷 耕子	次長	秋田谷 耕子
	新渡戸 真奈美		小笠原 由紀子	次長	山崎 伴
	沢田 拡子		相馬 晶子	主任	豊川 一彦
	新谷 則子		葛西 瑠子	主任	赤坂 淳
	奈良崎 玲子		須藤 明日香	融資主任	鷲尾 祐輔
	佐々木 祐子		三上 千夏	融資主任	有本 翔
	野呂 誠		藤原 雪乃	融資主任	石橋 広樹
			木下 諒	融資主任	小鹿 篤子
					木村 柊子
					對馬 萌
					三上 賛
					野上 賀生
					岩谷 謙司

副支店長 鈴木 学					
統括業務推進役 高橋 忠夫					
J Aバンク総括班 (017-762-4410)	J Aサポート班 (017-762-4414)	J A貸出推進班 (017-762-4402)	J A企画推進班 (017-762-4415)	J A指導相談班 (017-762-4417)	
次長	和田 隆樹	次長	木下 春彦	次長	新岡 尚文
主任	成田 結香子	次長	鶴賀 学	次長	福島 毅之
主任	吉川 雅也	主任	八木橋 洋樹	主任	太田 康佳
主任	小浜 雅史	主任	小川 獎	主任	葛西 智恵美
	對馬 武	主任	土岐 義和	主任	中澤 京義
	小材 光貴	主任	渋谷 拓治	主任	市村 百香
	大橋 拓司	主任	外崎 優子	主任	竹内 一智
		副調査役	阪本 康一郎		
			上北田 春紀		
				次長	鳴海 修吾
				次長	山口 将治
				主任	坂 達徳
				主任	木村 真喜子
				主任	新岡 修
				主任	辻本 恵美子
				主任	粟谷 秋博
				主任	最上 静
					滝田 浩史
					小泉 由紀子
					坂 純一
					小笠原 茂

令和2年度 株式会社青森県農協電算センター配置図 (令和2年4月1日付)

取締役センター長 円山 雄一郎

副センター長 鎌田 政行					
総務部 (017-729-8460)	業務部 (017-729-8540、8735)		管理経済部 (017-729-8500)		
副センター長兼部長	鎌田 政行	部長	町田 千代則	部長	新宅 博寿
部長代理	工藤 憲明	副部長兼部長代理	天内 賢司	部長代理	小館 一浩 (嘱託)
	今 薫	部長代理	濱中 大介	主任	佐藤 晃徳
	佐々木 晴奈	主任	小田切 将智	審査役	棟方 渉 (嘱託)
		主任	菅原 広大	調査役	関 洋幸
		調査役	久保田 和人		中村 洗貴
		副調査役	畑山 順彦		小田 香織 (嘱託)

行事 (4/10~5/10)			
農林中央金庫	農協電算センター		
4月		4月	
15日	J Aバンク青森運営協議会専門委員会 (県農協会館)	20日	定時取締役会 (県農協会館)
5月			
8日	窓口対応研修 (県農協会館)		

青森県農協営農指導員研修大会

JA全農あおもりは2月18、19日の2日間、青森市の浅虫さくら観光ホテルで「第47回青森県農協営農指導員研修大会」を開いた。県内JAから営農指導員約40人が参加。指導力を高めるための技術や各JAの取組事例などを学んだ。

「ドローンを活用した農業センシング技術の可能性について」と題して、(株)スカイマティクスの大路幸宗氏が講演。「ドローンで撮影した圃場画像により、雑草の発生状況、葉色による作物の生育状況や収穫適期を把握することが可能」と話し、他県の画像解析事例を紹介した。

また、令和2年11月、本県で開催予定の「JA営農指導実践北海道・東北ブロック大会」の選考会を兼ねた事例発表では、各JA営農指導員から担当している業務の取組みについて発表された。全農あおもりでは、引き続き研修会を通して、技術向上を支援していく。



▲ドローンの技術について学ぶ参加者

JA肥料農薬窓口研修会

JA全農あおもりは2月20、21日の2日間、青森市の県農協会館で「JA肥料農薬窓口研修会」を開いた。JA担当者の知識向上を目的に、JA購買窓口担当者など約30人が参加。専門知識や窓口での対応力について学んだ。

くみあい肥料(株)の宮崎勝久氏が「肥料はたくさん施肥すれば良いというものではなく、作物によって必要な成分が違う。適切な施肥管理が大切」などと説明し、参加者は肥料の基礎知識を身に付けた。

また、肥料農薬メーカー14社から、取扱商品の特性や使用方法について説明があった。

その他、フリーアナウンサー中島美華氏による「すべての出逢いをプラスに変えて」と題した講演で、窓口対応のスキルアップについて学んだ。

全農あおもり肥料農薬総合課の沼田友行課長は「肥料農薬の知識を身に着け、組合員の期待に的確に応えられる体制を整えてほしい」と呼びかけた。



▲肥料の基礎知識を学ぶ参加者

令和元年産米の食味ランキング発表

一般財団法人日本穀物検定協会は2月26日、令和元年産米の食味ランキングを発表。青森県産米の2品種「青天の霹靂」「まっしぐら」が『特A』評価を取得した。「つがるロマン」は前年産と変わらず『A』だった。

「青天の霹靂」は、参考品種だった平成26年産を含め6年連続の快挙。「まっしぐら」は前年の『A』



▲青天の霹靂とまっしぐらの最高評価を喜ぶ三村知事⑤と高谷清孝県農林水産部長⑥

ダッシュ』から2段階上がり、初の『特A』獲得となった。

これを受け、JA全農あおもり米穀部の成田具洋部長は「生産者の努力の賜物と感じている。2年産からまっしぐらの作付けが増える見込みだが、特A評価が販売の後押しに繋がるよう期待したい」と話した。

三村申吾青森県知事は「生産者の技術の高さが示せて嬉しい」と話した。

「青森うまいものキャンペーン」 プレゼント抽選会

JA全農あおもりは3月11日、青森市の県農協会館で「青森うまいものキャンペーン」のプレゼント抽選会を開き、当選者10人を決定した。

県産品の知名度アップと消費拡大を目的に、1月10日から3月10日までの2か月間、JAタウン「JA全農あおもり」ショップで展開した。

「新規会員登録し、ショップ内の商品を購入された方」「既に会員登録済みで、ショップ内の商品を購入された方」から抽選で各5名様にJAタウンギフトカード4500円分をプレゼントするもの。

対象者447人の中から、全農あおもり笹森俊充副本部長が抽選を行った。

笹森副本部長は「日頃、青森の商品を選んでいただいている方に大変感謝する。青森の旬の味覚を多くの人に味わってもらい、美味しさを実感して欲しい」と話した。



▲青森うまいものキャンペーン抽選会

りんご高密度植わい化栽培総合検討会

JA全農あおもりは3月12日、青森市の県農協会館で「りんご高密度植わい化栽培総合検討会」を開き、本栽培法に関する令和元年度に行った各種

調査結果について協議した。令和元年産の調査では「果実品質は40から36玉に揃い、糖度・着色も良好であったことから、果実品質の均一化が図られ、また、安定した所得の維持や作業の軽労化も実現された」という結果になり、この栽培法のメリットが垣間見えた。

その他、青森県や地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所、青果物価格安定基金協会、種苗業者からも情報提供があった。

次年度も引き続き、本栽培法の地域適応性などを検討していくとともに、導入する際に必須となるフェザー苗木の安定供給体制づくりについても取り組むこととしている。

全農あおもりは、わい化栽培の一つの選択肢として平成25年から、先進的に取り組みを進めているJA全農長野などの協力を得て、早期多収・品質の均一化・省力低コスト生産が期待できる高密度植わい化栽培の推進を図ってきた。平成29年からは県内数か所の実証ほを設置し、樹体生育や品質、収量等について調査を重ねてきた。

今後本栽培法による生産基盤の充実強化を図り、生産量の増大と系統出荷率の向上に努めていくこととしている。



▲次年度の取り組みに向けて協議する出席者

行事（4/10～5/10）

- | | |
|-----|----------------------------|
| 4月 | |
| 17日 | JA米穀担当部課長および担当者合同会議（県農協会館） |
| 20日 | 運営委員会（県農協会館） |
| 5月 | |
| 8日 | 農産物検査員育成研修開校式（県農協会館） |

令和2年度 職員配置一覽

県本部長	桑田 徳文
副本部長	藤間 則和
副本部長	笹森 俊充

管理部

部長	(笹森副本部長事務取扱)		
次長	小田 桐 聡		
企画管理課	課長	齊藤 仁志	志
	課長代理	今本 和寿	寿
		鶴谷 真央	央
		太田 健朗	朗
		工藤 巨晟	晟
	(新採用)	柳町 周	周
コンプライアンス課	臨時(短期)	前田 千賀子	賀
	課長	石川 浩人	人
	課長代理	岡元 るみ子	子
総務人事課	課長	工藤 彩子	子
	課長代理	種市 雅彦	彦
		中谷 基子孝	孝
		高橋 結香	香
		村元 今日子	子
		三上 功多	多
	嘱託	古谷 明	明
	嘱託	工藤 里佳	佳
	臨時	伊藤 達也	也
	臨時(短期)	横山 美智子	子
臨時(短期)	葛西 進	進	
経理課	課長	前田 哲	哲
	課長代理	石山 伸吾	吾
		森伸 治	治
		加藤 彩乃	乃
		宮塚 暢子	子
		山添 泰介	介

米穀部

部長	成田 具洋		
次長	川村 浩史		
米穀総合課	課長	當麻 綾子	綾
	課長代理	田村 和美	美
		泉谷 京之	之
		黒滝 克之	之
	嘱託	鹿内 神竜	竜
	嘱託	薬師 神竜	竜
米穀流通課	臨時	新藤 歩	歩
	課長	相場 仁	仁
	課長代理	鹿内 昭智	智
		成田 淳子	子
		和嶋 靖晃	晃
		大場 春樹	樹
		杉田 拓哉	哉
	(新採用)	佐々木 隼	隼
	嘱託(再雇用)	奈良岡 博治	治
	嘱託	岩下 愛	愛
米穀販売事務所 大阪駐在	所長	乙部 高雄	雄
		山形 壮平	平
パルライス販売課	課長	北村 武志	志
	課長代理	山崎 隆行	行
		石川 達也	也
		工藤 永真	真
	嘱託	新野 勇太	太
	臨時	工藤 かつお	お
	所長	木村 伸夫	夫
		越田 茂輝	輝
	嘱託	山中 大資	資
	嘱託	齊藤 一希	希
パルライスセンター	嘱託(再雇用)	浜田 真論	論
	臨時	青柳 真也	也
	臨時	福長 正貴	貴
	臨時	倉倉 勇太	太
	臨時(短期)	新岡 洵治	治

りんご部

部長	坂本 浩		
りんご課	課長	福嶋 静孝	孝
	課長代理	大柴 文雅	雅
		岡本 雅子	子
		中谷 五美	美
		平舘 慶徳	徳
		小枝 祐斗	斗
		外川 裕太	太
		山形 拓貴	貴
		石井 裕平	平
		葛西 逸平	平
アグリショップ青森店	(新採用)	土岐 鈴夏	夏
	嘱託(再雇用)	中屋敷 淳一	一
	所長	高橋 良豪	豪
	臨時	高橋 幸子	子
	臨時	大橋 詩織	織

やさい部

部長	平山 智樹		
やさい花き課	課長	高橋 哲也	也
	課長代理	秋元 陽貴	貴
		米塚 幸子	子
		大久保 義男	男
		石塚 照崇	崇
		上平 章弘	弘
		平澤 亜美	美
		金澤 展嗣	嗣
		山形 雅一	一
		原子 悠基	基
やさいパッケージセンター	臨時	澤田 勇生	生
	所長	佐々木 正至	至
		岡山 康博	博
		千村 佳央	央
		梅村 佳子	子
		安田 真悟	悟
	中居 秀太	太	
	苦米地 勇誠	誠	

青果販売事務所

東京青果販売事務所	事務所長	竹達 広治	治
		向井 勝美	美
		成田 晃良	良
名古屋青果販売事務所	臨時(短期)	林 文子	子
	事務所長	木村 一彦	彦
	臨時	相馬 洋一	一
大阪青果販売事務所	臨時	浅野 ひろみ	み
	事務所長	岩渕 弘安	安
		西口 康朗	朗
	臨時	山内 千輔	輔
	臨時	浜野 千恵	恵
福岡駐在	臨時(再雇用)	山内 智久	久
		矢野 良美	美



畜産酪農部

部長	長 内 敏 也	
畜産酪農課	課長	福 士 文 浩
	課長代理	岩 崎 崇 仁
		今 村 卓 嗣
		渡 邊 墨 人
		今 裕 也
畜産事業センター	嘱託	工 藤 絵 里
	嘱託(再雇用)	中 谷 廣 幸
	所長	七 戸 貴 資
		今 藤 正 信
		今 勝 勝
牛乳冷却処理所	臨時(短期)	織 笠 豊
	所長	加 賀 久 美 子
		駒 井 博 史
		久 保 田 雅 弘
		星 川 光 博
		高 清 水 祐 一
		小 松 穂 月
	臨時	高 木 美 喜 子
	臨時(短期)	田 中 史 子
	臨時(短期)	久 保 幸 男
臨時(短期)	坪 直 子	

生産振興部

部長	齋 藤 至	
次長	三 湯 謙	
	沼 田 友 行	
営農対策課	課長	(沼田次長事務取扱)
	課長代理	佐々木 勉
		倉 内 恒 明
		今 沙 織
		岡 田 大 佑
土壌分析センター	嘱託(再雇用)	盛 陽 祐
	所長	藤 井 智 秀
肥料農業総合課	臨時	(沼田次長事務取扱)
	課長	田 中 真 紀 子
	課長代理	藤 田 匡 臣
		松 江 佳 博
		田 中 嗣 巳
肥料農業推進課		長谷川 欣 哉
		佐々木 将 志
	臨時(短期)	兼 平 莉 里 佳
	課長	蝦 名 牧 子
	課長代理	岩 崎 哲 也
		白 川 巧
		長 尾 浩 誠
		須 藤 雅 樹
		中 谷 貴 昌
		梶 智 光
八戸駐在		木 立 将 志
		川 村 光 博
		加 藤 優 和
		岡 村 達 也
	臨時	大 杉 梨 加 子
	臨時	石 澤 早 希
	臨時(短期)	齊 藤 美 樹 子
	臨時(短期)	木 村 成 子
	所長	奈 良 岡 寛 久
	臨時	齋 藤 幸 樹
東青地域資材配送センター	臨時	成 田 文 朋
	臨時	齋 藤 浩 一
	臨時	野 呂 順 一
	所長	小 田 桐 泰 志
	臨時	熊 野 忠 志
三八地域資材配送センター	臨時	工 藤 弘 貴
	臨時(短期)	小 泉 誠
	課長	泉 谷 剛
	課長代理	成 田 巨 樹
		下 山 真 治
農機農業資材課		八 戸 俊 輔
		長 尾 和 朋
		宮 本 昌 浩
		前 田 康 宏
		津 島 勲
	臨時	横 山 由 果
	臨時(短期)	深 堀 真 紀 子

生活関連部

部長	長 内 暁		
生活課	課長	三 浦 強	
	課長代理	佐 藤 貴 洋	
		佐 藤 陽 子	
		中 川 洋 平	
	嘱託(再雇用)	今 正 守	
	臨時	風 晴 政	
	県南LPガスセンター	所長	桑 田 和 仁
			成 田 建 生
		嘱託	岩 井 喜 四 郎
		臨時	若 沢 重 広
臨時		野 月 仁 光 子	
葬祭センター弘前	所長	増 田 勝 秋	
	所長	(増田所長兼務)	
葬祭センター五所川原	所長	(増田所長兼務)	
	所長	畑 山 俊 一	
やすらぎホールつがる	所長	(増田所長兼務)	

本 所

広報・調査部(広報SR課)		今 井 明 佳
園芸部	次長	黒 滝 英 樹
耕種資材部東北営農資材事業所(事業推進課)		佐々木 浩 藏
施設農住部(施設農住課)		白 戸 勝 裕
東北広域施設事業所(青森施設事務所)	所長	小 山 内 隆 浩
	臨時(短期)	齋 藤 憲 史
総合エネルギー部 東北エネルギー事業所(青森推進課)	課長	宮 腰 陽 子
	課長代理	高 橋 次 郎
		岩 田 哲 欣
		伊 藤 千 尋
		飯 田 裕 樹
		赤 星 理
	臨時	武 将 太 郎
	唐 牛 由 美 子	

出 向

J A 青森中央会総務企画部		山 形 麻 美
J A 青森中央会農業対策部		吉 田 裕 一
J A 青森中央会農業対策部		泉 谷 勝 明
J A 青森中央会農業対策部		石 田 隆 徳
青森県農協会館管理委員会	嘱託(再雇用)	棟 方 清 治
青森県産米需要拡大推進本部 (公社) 青森県農産物改良協会		泉 谷 俊 浩
(一社) 津軽中央共同倉庫		白 戸 康 浩
王子製袋(株)	臨時	佐 藤 仁 勝
昭和ボックス(株)	嘱託(再雇用)	齋 藤 聡
(公社) 青森県青果物価格安定基金協会	嘱託(再雇用)	梶 浦 治 彦
(一社) 上十三広域農業振興会		川 村 恵
J A 全農北日本くみあい飼料(株)		関 谷 龍 一
東北生乳販売農業協同組合連合会		鈴木 真 規
青森県牛乳普及協会		枋 木 清 光
片倉コープアグリ(株)	臨時	奥 本 瑠 美
小野田化学工業(株)	嘱託(再雇用)	福 士 学
日本肥糧(株)	嘱託(再雇用)	工 藤 勲
クミアイ化学工業(株)	嘱託(再雇用)	古 川 忠 彦
北東北スカイテック(株)		兼 平 俊 美
(株)A コープ東北		最 上 進 一
ハラダ協同サービス(株)	嘱託	福 田 康 博
	嘱託	鳴 海 辰 哉
	嘱託	渡 辺 宏 平
	嘱託	江 良 康 文
	嘱託	三 国 洋 輔
	嘱託	藤 田 安 晃
	嘱託	今 俊 秀
	嘱託	横 山 武 一
	嘱託	石 田 勝 弘
	嘱託	菊 池 隆 志
	嘱託	山 本 悟 郎
	嘱託	葛 西 珠 実
	嘱託	横 山 尚 史
	嘱託	對 馬 亮
	嘱託	葛 西 和 夫
嘱託	島 本 晋 太 郎	
嘱託	棟 方 康 友	
臨時	佐々木 美 喜	
臨時(短期)	中 田 盛 子	
J A 三井リース(株)		長 谷 川 敦
全農物流(株)		加 賀 田 誓 也
日本通運(株)	嘱託(再雇用)	泉 谷 岳 司

令和2年度 職員配置一覧

<令和2年4月1日付>

本部長	福士 雅巳
副本部長	沼田 博文

事業支援部

部長 (副本部長兼務)	
次長 中野 博人	
推進支援グループ	
課長	吉川 勉
課長	田中 学
	前原 達明
	倉本 一仁
	中野 雅寿
	小形 憧
	伊奈 祐亮
	佐藤 薫
	戸川 真友美
	佐々木 舞 (臨)

管理部

部長 沼山 定継	
管理総務グループ	
(企画・管理)	課長 相坂 康人
(/)	工藤 まどか
(/)	古川 浩子
(/)	菊池 まき子 (嘱)
(総務・人事)	課長 工藤 学
(/)	三上 幸代
(/)	坂井 貴子
(/)	佐藤 光祥 (嘱)
(/)	野宮 里美 (嘱)

事業企画部

部長 葛西 真司	
普及企画グループ	
課長	沼山 正幸
	今 拓道 (審)
	工藤 修
	萩原 麻由
	若佐谷 直樹
	高松 珠美
地域貢献グループ	
課長	吉井 基郎
	須藤 巧
	岩谷 拓朗
	三浦 友美
	土田 華鈴 (臨)

業務支援グループ	
課長	室谷 栄司
	升田 昭人 (審)
	千葉 幸喜
	乳井 蓮
	村川 真悠
	大澤 公男 (嘱)
	小倉 倫子 (臨)

業務総合グループ	
課長	織笠 勝則
	坂本 一
	石岡 一弥
	長内 克文
	佐藤 昂平
	西田 一明
	工藤 真由美
	齋藤 隆昭 (嘱)
	佐藤 朋子 (臨)
代理店事業グループ	
課長	水嶋 誠
	大水 伸彦
	藤田 真紀子
	福井 美奈未 (臨)

自動車損害調査部

部長	小林 理
交通事故相談所長 (部長兼務)	
交通事故相談所 参与	木村 勝見 (嘱)
自動車損調総合グループ	
課長	成田 和智 細川 聖司 今 陽子 吉崎 麻子 (臨)
青森中央自動車損害調査SC	
SC長	中谷 勝
課長	清水 七恵 (臨) 矢野 慶明 中村 琢也 森本 正宝 花井 由美 安部 龍一 福井 恵 漆坂 等 (嘱) 新岡 信也 (嘱) 川村 巳智仁 (嘱) 庄司 豊 (嘱) 澤田 一雄 (嘱) 小田桐 清光 (嘱) 岡本 善光 (嘱)
弘前自動車損害調査SC	
SC長	七戸 俊文
課長	常田 愛 (臨) 白戸 康弘 相馬 一之 櫛引 大介 蛭名 茂和 鈴木 幸子 田村 準人 (嘱) 三上 晃 (嘱) 平山 暢寿 (嘱) 根本 享 (嘱) 齋藤 洋一 (嘱) 工藤 百恵 (嘱) 小山内 和久 (嘱)
青森県南自動車損害調査SC	
SC長	島元 貢
課長	太田 学志 工藤 伸行 沼田 邦広 工藤 雅士 白山 郁実 深沢 隆 若松 孝文 (嘱) 阿部 重宣 (嘱) 佐々木 政敏 (嘱) 福田 千恵美 (嘱) 日野口 かおり (嘱) 藤井 直人 (嘱) 駒井 秀樹 (派) 小笠原 和子 (派)

出 向 等

(理事長特命) 内部監査役	鳥谷部 光雄
(全国本部東北地区業務センター) 次長	佐野 茂
(") 課長	福田 光明
(")	小比類巻 淳子
(")	小湊 祥太郎
(")	佐藤 杏倫
(")	亀田 朝子
(管理部付青森県中央会出向)	坂本 公利 (審)



行事 (4/10~5/10)

4月

- 13~16日 新任L A研修会 (県農協会館)
- 14~17日 共済基礎知識研修会/事務手続コース (県農協会館)
- 17日 Lablet's 操作研修会 (新任L Aコース) (県農協会館)
- 20日 運営委員会 (県農協会館)
- 21日 Lablet's 操作研修会 (新任スマサポ・担当者コース) (県農協会館)
- 21~24日 共済基礎知識研修会/共済端末機操作コース (県農協会館)
- 23~24日 自動車共済事故受付・現場急行研修会 (県農協会館)

経営の窓口

農林年金の特例業務負担金にかかる会計処理等について

1. 農林年金の特例業務負担金にかかる会計処理

農林年金の特例業務負担金にかかる会計処理については、農協法施行規則第130条において「拠出時費用処理」と「将来負担見込み額」を注記する取扱いが規定されていた。

令和2年4月1日に農林年金改正法が施行され、関係政省令が整備されたが、施行規則第130条は改正されなかったことから、現行の「拠出時費用処理」と「将来負担見込み額を注記」する会計処理が、法定事項として今後も続くこととなった。

2. 目的積立金の取扱い

これまで県内JAでは、特例年金給付の一時金清算による一括費用処理を想定し、特例業務負担金将来見込額に対応した目的積立金を積み立ててきたが、現行の会計処理を継続するため、一括費用処理の懸念は払しょくされた。

県内JAの積立金の内容をみると、「リスク管理積立金」、「経営安定化積立金」等となっており、農林年金の特例業務負担金のみに対応する積立金を行っているJAはないことから、目的積立金の取り崩しは必要ないが、目的積立金の取崩基準の中に、「農林年金一括費用処理」、「農林年金制度完了」等の項目があるJAについては、当該項目を削除することとなる。

3. 長期前納を行った場合の経理処理

(1) 第1次長期前納（平成27年度）では、長期前納対象負担金額を「長期前納実施月の前月分の標準報酬月額総額」に基づき計算されたが、理事会付議や資金繰りの都合から早めに確定額を知りたい旨の要望が多数あったことを踏まえ、基準月を長期前納実施月の「3か月前」とするよう農林水産省令が改正された。

(2) 長期前納額は、令和14年3月まで毎月一定額が取崩しされる。職員数・給与等の変動により、基準月となった標準報酬月額が令和14年3月まで同額となることはあり得ないため、実際のその月の標準報酬月額が、長期前納した際の基準月の標準報酬月額と比較して増額となっている場合は、法定福利費が増えるため未払金が発生する。逆の場合は、未収金の発生となる。（(4) 経理処理参照）

(3) 長期前納実施時の経理処理

長期前納は特例業務負担金の前払いとしての性格を有し、将来の各月・各年度に費用認識するため、前納時点では費用とはならず「長期前払費用」の科目で資産計上する

日付	借方	貸方	摘要
R1.12.25	長期前払費用 75,031,066	現金預金 75,031,066	農林年金特例業務負担金に係る長期前納額の納付（R1.12分～R14.3分の100%相当額）

(4) 長期前納額の精算時の経理処理

農林年金から毎月送付される精算明細書の内容に従って、次のように経理処理する。

○長期前納負担金 精算明細書

(金額：円)

長期前納対象年月(告知年月)	実際の標準報酬月額総額 ㉞	負担金月額 ㉞*2.04% = ㉟	割引調整額 ㊱	割引調整後の負担金額 ㉟-㊱=㊲	前納充当額 ㊳	前納充当後の要負担額 ㊲-㊳	長期前納負担金額 ㊴	長期前納残高 ㊴-㊵
R1.12	26,000,000	530,400	23,434	506,966	506,966	0	75,031,066	74,524,100
R2.1	25,000,000	510,000	23,434	486,566	506,966	-20,400		74,017,134
R2.2	26,500,000	540,600	23,434	517,166	506,966	10,200		73,510,168
R2.3	26,000,000	530,400	23,434	506,966	506,966	0		73,003,202
				㊲	㊳	㊴		

○令和元年12月分（1月処理） （金額：円）

日付	借方	貸方	摘要
R2.1.25	法定福利費① 506,966	長期前払費用② 506,966	農林年金特例業務負担金長期前納額（12月分）の費用計上

○令和2年1月分（2月処理） （金額：円）

日付	借方	貸方	摘要
R2.2.25	法定福利費① 486,566 未収金③ 20,400	長期前払費用② 506,966	農林年金特例業務負担金長期前納額（1月分）の費用計上

○令和2年2月分（3月処理） （金額：円）

日付	借方	貸方	摘要
R2.3.25	法定福利費① 517,166	長期前払費用② 506,966 未払金③ 10,200	農林年金特例業務負担金長期前納額（2月分）の費用計上

（5）過不足の精算方法

月々の負担金決定で生じた過不足額は、長期前納割合に応じて原則として以下の精算方法となる。

区分	精算方法	
100%前納JA	年1回精算	月々の過不足を集計し、年1回精算（原則として毎月4月）
一部前納JA	毎月精算	毎月の月払負担金から長期前納分の過不足を加減することにより精算

4. 決算における経理処理

特例業務負担金は、前月分を当月農林年金に支払うこととなっているが、決算においては、決算整理が必要となる。

3月決算JAにおいては、4月上旬に3月分の精算明細書がJAに届くことから、決算整理期間中に3月分の特例業務負担金を令和元年度の費用として処理する必要がある（6月決算JAも同様で、7月の決算整理期間中に処理する）。

（1）長期前納を行っていないJA

借方	貸方	摘要
法定福利費 〇〇〇,〇〇〇円	未払金 〇〇〇,〇〇〇円	決算整理 3月分の農林年金特例業務負担金の費用計上

（2）長期前納を行っているJA

借方	貸方	摘要
法定福利費 〇,〇〇〇,〇〇〇円 (過払額がある場合) 未収金 〇〇,〇〇〇円	長期前払費用 〇,〇〇〇,〇〇〇円 (不足額がある場合) 未払金 〇〇,〇〇〇円	決算整理 農林年金特例業務負担金長期前納額 (3月分)の費用計上

（3）長期前納の残高について

上記（2）の経理処理により、試算表の長期前払費用と農林年金からの精算明細書（3月の長期前納残高）は一致する。

5. 特例業務負担金の将来見込額（注記額）の見直しについて

（1）農協法施行規則第130条において注記することとされている特例業務負担金の将来見込み額は、毎年4月に農林年金からこれまでどおり通知される。

（2）制度完了を見据え、農林年金においては、令和2年4月通知分から特例業務負担金の将来見込額の計算方法を見直すこととしているが、各JAの負担金額の計算方法（標準報酬月額×2.04%）に変更はないため、実際に負担する額には影響がない。

（中央会 経営対策部）

組織農政通信

新型コロナウイルス感染症による農業関係等への影響調査結果

J A全中が2月下旬および3月中旬、各都道府県中央会等に対し、新型コロナウイルス感染症の影響調査を実施した。

1. 農産物の販売・流通関係の影響

- (1) 外国人観光客の減少により外食等の需要が減少し、農畜産物の消費量が減少している。特に、インバウンドにより需要が下支えされていた和牛（特に高級グレード）の価格が大幅に急落している。
- (2) 牛乳をはじめ、休校による学校給食向けの食材のキャンセルが拡大している。
- (3) イベントや学校行事の中止・延期・自粛、旅行・外食の減少等により、農畜産物の業務用需要が減少している。
- (4) 感染者が出た県において、ふるさと納税の返礼品がキャンセルされている。

2. 営農関係の影響

- (1) 農家組合員の技術向上等のための講習会の中止、生産部会の総会、先進地視察、市場での販売促進が中止・自粛されている。
- (2) 中国政府の許可、ビザが下りない、送出機関の機能停止等により技能実習生が来られない等中国人の技能実習生の受入れに支障をきたしている。

外国人技能実習生については、12県で950名程度受入れの見通しがたっていない状況

3. 生産資材関係の影響

- (1) 工場停止の長期化、物流の遅延等による農薬や肥料・肥料原料（塩安、リン安、リン鉱石など）、フレコンなどの生産、包装資材が不足になる恐れ、一部の農薬について複数のJ A・県で在庫がわずかになっている。
- (2) 農機とその部品等の輸入遅延の恐れがある。
- (3) 多くが中国製品である田植え用長靴が不足する恐れがある。
- (4) 畜産飼料となる中国産稲わらや飼料添加物の輸入が遅延している。
- (5) 農業散布に必要な作業用マスクが不足する恐れがある。

4. 農村など地域振興関係の影響

- (1) 外国人を含め観光客の減少により、直売所等の集客が減少している。また、団体旅行の自粛等により、観光農園の集客が減少している。
- (2) 農業まつりなどの地元農産物を活用したイベントの中止により、売り上げが減少している。
- (3) アジアや欧米など海外の旅行会社から受注している訪日団体や個人の旅行が延期または中止となっている。

J Aグループの取扱っている海外旅行、国内旅行、講演会、歌謡ショー等のキャンセルによる影響額は35億円以上

5. J A経営関係の影響

- (1) 農業・J A関係の各種大会・会議、イベント等の中止・延期に伴う多額のキャンセル料が発生している。
- (2) 信用や共済等、感染防止のため、訪問を拒否されるケースが発生している。
- (3) J A職員で感染者が出たが、消毒・休業・再開の方法、公表・マスコミ対応に苦慮している。
- (4) 休校に伴い、子供のいる職員・従業員が休暇を取得しているが、代替者の確保が難しい。
- (5) 農家や集出荷場で感染者が出た場合の対応について、ガイドラインは出たものの、実態に合った具

体策を策定するのに苦慮している。

- (6) マスク、消毒液の確保など、感染防止に関する費用が増加している。
- (7) 各種業務の延期等により、次年度の業務が増加しかねない状況にある。

6. 農業・農村・JA関係での要望

(1) 全般

- ① 万全な感染防止策の実施と早期の収束、風評被害の徹底防止
- ② きめ細かい感染防止策の迅速な情報提供
- ③ 学校給食休止対応など、第2弾緊急対策の迅速かつ適切な実行
- ④ マスク、消毒液等の不足の早期解消

(2) 需要喚起対策、地域活性化対策

- ① 和牛、花き等の需要減少品目の需要喚起
- ② 観光客の回復等による地域活性化

(3) 次期作に向けた生産、経営支援対策

① 畜産、酪農関係

ア 肉用牛農家の万全な経営安定対策

- ・ 牛マルキンの生産者負担金のみなし納付等の経営安定対策の拡充

イ 牛肉等の流通円滑化対策

- ・ 食肉関連事業者の追加的な食肉保管・輸送経費への支援
- ・ 牛肉の販売不振等により飼養期間を延長する場合の追加的な飼料費等への支援
- ・ 繁殖雌牛の増頭奨励金の周知徹底

ウ 乳製品等の流通円滑化対策

② 花きなど園芸品目対策

ア 営農継続を後押しする「次期作支援」の実施

(4) 受入ができなくなった技能実習生などの代替者確保等の対策

① 学生等による援農、インターンシップの推進

ア 農業高校、農業大学校、大学農学部等の学生による援農・インターンシップ推進

イ 農業インターンシップ、ふるさとワーキングホリデーの推進

- ・ 地域内外の休業者などを含めた、農業就業体験活動事業、総務省のふるさとワーキングホリデー事業における援農推進（交通費・宿泊費・保険料を助成できるよう支援を拡充）

ふるさとワーキングホリデーは、都市に暮らす若い人達が、一定の期間地域に滞在し、働きながら地域の人たちとの交流の場や学びの場を通して、地方をまるごと体感してもらい、地域との関わりを深めていただく制度。

② 労働力融通の推進

ア 広域の労働力融通の推進

イ 農業法人の従業員の融通の推進

- ・ 災害対策で実施している「農の雇用事業の特例」の活用

③ 技能実習生受入困難地域の農作業の効率化

ア 農機のレンタル・リース導入の推進

④ 感染した農業者等の経営継続対策

- ・ 農業者等が感染した場合の酪農ヘルパーなど代替者の出役に対する支援
- ・ 家畜を公共牧場等に緊急避難する際の輸送費や管理委託費の助成

技能実習生の受入円滑化に向けた対策

- ・ 在留資格認定証明書交付申請の簡素化の取扱い拡大
- ・ ビザの発給手続きの迅速化
- ・ 技能実習計画の変更手続きの簡素化
- ・ 想定「期間、収入」の確保ができるよう、実習の柔軟化、就労機会の確保 外

7. 農林水産大臣への要請

3月13日、JAグループを代表しJA全中は、江藤拓農林水産大臣に対し、当該「新型コロナウイルス感染症による農業関係等への影響について」を活用し要請しているが、自民党野菜・果樹・畑作物等・畜産・酪農対策委員会での議論を経て、26日に自民党農林部会としての対策がとりまとめられている。

(中央会 農業対策部)

農林水産省において新型コロナウイルス感染者発生時の対応及び事業継続のガイドラインを作成しました

水田・畑作・施設園芸等の農業者や集出荷施設等の従業員のみなさまは、国民への食料の安定供給等に重要な役割を担っています。みなさまの中で新型コロナウイルス感染者が発生した時に、業務継続を図る際の基本的なポイントをまとめたものです。

予防対策を徹底してください

厚生労働省等の情報に基づいて、徹底した対策をお願いします。

- **農業者・従業員等に感染予防策を要請**します。
 - ① 体温の測定と記録
 - ② 発熱などの症状がある場合は、関係者への連絡と自宅待機
 - ③ 37.5℃以上の熱が4日以上継続した場合等は、関係者に連絡の上、保健所に問い合わせ
 - ④ 屋内で作業をする場合は、できる限りマスクを着用し、多人数で行う場合等、状況に応じて換気を行う
 - ⑤ 集出荷施設等への入退場時には手洗い、手指の消毒
 - ⑥ ドアノブ、手すり等人がよく触れるところは、拭き取り清掃
- **会議・行事等の開催の必要性を検討**し、開催する場合は風通しの悪い空間をなるべく作らないなど工夫してください。

感染者が発生した場合は保健所の指示に従い対応してください

- **感染者が確認された場合**には、**関係者に周知**するとともに、**保健所に報告**し、対応について**指導を受けて**ください。
- 保健所の**調査に協力**し、濃厚接触者の確定を受けます。
- 濃厚接触者と確定された農業関係者には、**14日間の自宅待機**及び**健康観察**を実施してください。

- 濃厚接触者と確定された農業関係者は、発熱又は呼吸器症状を呈した場合は、**保健所に連絡**し、**行政検査を受検**します。

生産施設等の消毒の実施

- **保健所の指示に従って**、感染者が作業に従事した区域の**消毒**を実施します。
緊急を要し、自ら行う場合には、感染者が作業に従事した区域のうち、頻繁に手指が触れる箇所を中心に、消毒液、アルコール（消毒用エタノール（70%））で拭き取り等を実施してください。
- **一般的な衛生管理が実施されていれば、感染者が発生した施設等は出荷停止や農産物廃棄などの対応をとる必要はありません。**

業務の継続

あらかじめ地域の関係者が**連携する体制の検討**をお願いします。

例えば、耕起作業や播種・育苗作業、水やり作業など、当面の営農活動継続のために支援を必要とする作業を検討し、作業の優先順位付けを行います。（支援内容の検討）

また、周辺農業者や受託組織の活用など、あらかじめ、誰（どの機関）が、どの作業を支援するか役割を明確化します。（支援要員の検討）

<想定される団体、グループ等>

- ・JA等の生産部会
- ・農業法人のグループ
- ・集出荷事業者等を共有する集団
- ・集落



<検討しておく事項>

- ・連絡窓口、連絡網の作成
- ・消毒資材、消毒要員の確保
- ・農作業代替要員のリスト作成
- ・代行する作業の明確化、優先順位付け、作業方法
- ・代替要員が確保できない場合の最低限の維持管理方法など

↓ ガイドライン（農林水産省HP）

http://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/pdf/gl_nou.pdf



JA全農
施設農住部 東北広域施設事業所
青森施設事務所
齋藤 憲史 さん

輝き

●プロフィール
2017年4月から勤務 弘前市出身 40歳

— 働くきっかけは？ —

前職にて農業施設建設へ係る機会があり、そこで農業施設及び選果の機械等を計画・設計する仕事に興味を持ち、現在に至ります。

— 業務内容を教えて下さい。 —

農業施設及び事務所等の新設に伴う設計業務及び既存建物修繕等の計画や見積等を行っております。

— 働いた感想は？ —

未経験な業務内容なので、とにかく知識不足のせいで相談して頂いた内容に対し満足できる回答をすぐに用意できないことが、失敗というか、これからずっと続く課題だと思っています。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

建物を建てるうえで、想像も出来ないような様々な法的規制があること、また、それをクリアしなければならないことを上手く伝えられるように心がけています。そして、何よりも、建物を利用する人が満足できる設計が出来る様に勉強しています。

— 特技・趣味は？ —

最近興味を持ち、乗り始めた自転車です。

— あなたが自慢できることは？ —

目標を達成するために意志を貫くこと

— 将来の夢は？ —

当面の目標は現在の業務を問題無くこなせるようになることです。

なんといっても種類が豊富！ 会員手づくりの旬の漬物味わって



自慢の漬物を手にする部会員

JAつがる弘前四季彩館友の会漬物部会は、会員個々が旬の素材を使って手づくりした漬物を、同JA農産物直売所「四季彩館」に出荷している。

漬物コーナーには、「赤カブの千枚漬け」や「キュウリのからし漬け」、酢漬けにしたサーモンを塩漬け大根で挟んだ「サーモン漬け」などの売れ筋商品をはじめ、数十種類の漬物が並んでいる。

商品名が同じでも、作る会員によって味付けに特徴があるため、会員名が分かるようにラベルを貼って試食用意している。食べ比べしながら自分好みの味を探せるのも魅力。

齋藤美代子部会長は「私たち漬物部会員は、お客様においしく食べてもらえるのが一番の喜び。先代から受け継いだ味や、会員それぞれが工夫を凝らして作る漬物の味にプライドを持ちつつも、常に試行錯誤しな

がら新商品の開発にも力を入れているので、是非食べてもらいたい」と話す。

店舗で販売している漬物は概ね300g入りで、価格は150円～350円。四季彩館以外へは出荷していないため、店舗に足を運んでいただき、四季彩館限定の漬物を是非ご賞味ください。

問い合わせ先：JAつがる弘前農産物直売所「四季彩館」
電話：0172 (82) 5000
記事提供：JAつがる弘前



ミニトマトの規模拡大へ
青森市浪岡地区
横嶋 優汰さん



ミニトマトを栽培する横嶋さん

幼い頃から、リンゴと大玉トマトを栽培する祖父の手伝いをしてきた青森市浪岡地区の横嶋優汰さん(23)。

トラック整備の仕事に就いてからも農作業の手伝いを続けていた。しかし、祖父が高齢のため思うように農作業が出来ず、収穫が遅れていくのを見て「このままでは駄目だ」と感じ、勤めていた会社を退職。ミニトマトを栽培する先輩農家のもとで1年半の研修を経て、2017年に就農した。

現在は、リンゴ60アールとハウス5棟でミニトマトを栽培する。祖父は、大玉トマトを作付けしていたが、研修先で学んだ事を生かせる事と、高収益作物で魅力的であるため、作付け品目をミニトマトに切り替えた。

先輩農家のもとでの研修や祖父から栽培に関する技術や知識を習得し、自らの農業経営に生かしてきた。「いざ、家族や作業員に教えるとなると難しく、間違ってしまうこともある」と苦笑いする横嶋さんだが、就農当初2.6トンだったミニトマトの出荷量は3年目には7.8トンと、3倍に増加した。

農業の魅力について「自分で栽培計画を策定し実践できる楽しみがある。適期に収穫が出来ないなど、思うようにいかない時は原因を検証し改善している。頑張った時は、自分へのご褒美として趣味の車に没頭する時間も設けている」と話す横嶋さん。これからの目標については「自家消費野菜を栽培している農地にハウスを建て規模を拡大していきたい。家族が健康でケガなく、長く農業をやって行ければ」と夢を語った。

(日本農業新聞・青森県版3月12日掲載)

後編
編集
記集

10年ぶりに広報誌「絆」がリニューアルとなった。

前回からの大きな変更点は、①右開きから左開きへ②記事は、縦書きから横書きへ③各連のインフォメーションの充実、である。

3年間続いたJCAの「これからも協同組合」の掲載が3月号で終了となったが7月号からは、県内JAや関係団体の最新の取組み・ニュースを掲載する予定である。

魅力ある、そして、何よりも多くの読者に読んでもらうよう誌面の充実を図っていきたい。

定期人事異動があり、留任が決定したと同時に

「絆」の編集3年目を任されることになった。

また、全共連青森県本部の広報担当者が異動により交代となったが、新天地での活躍を期待したい。

リニューアルした4月号だが、最初は違和感を感じる方も多いと思われるが、そのうち慣れるのでよろしくお願いします。(公)



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <http://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <http://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <http://www.am.zennoh.or.jp/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <http://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



© やなせたかし



QUOカード販売中



QUOカードは、
プロモーションから
記念品までこれ1枚でOK!

弊社では、QUOカードを販売しております。
QUOカードは、コンビニエンスストア・ファミリーレストラン・ガソリンスタンド・ドラッグストア・書店など全国約57,000店でご利用いただける、全国共通のプリペイドカードです。
キャンペーン商品や販売促進のほか、ちょっとしたご挨拶品、記念品など、様々なシーンでお使いいただけます。
コミュニケーションツールとしてご活用ください。

キャンペーン活動、商品として

御礼などコミュニケーション活動に

記念行事や式典などに

インセンティブとして

QUOカードのご紹介

◆スタンダードカード 1枚よりご購入いただける既成デザインカード。在庫があればその場で直ぐにご購入いただけます。
●500円券（販売価格530円） ●1,000円券（販売価格1,040円） ●2,000円券（販売価格2,000円） ●3,000円券（販売価格3,000円） ●5,000円券（販売価格5,000円）

◆レディメイドカード
既成のベースデザインに文字を入れることが出来るセミオーダータイプのカード。
お届けまでは約2週間いただいております。
50枚よりご注文が可能、少ロットでの記念品にぴったりのQUOカードです。

◆オリジナルカード
デザインが完全オーダーメイドのカード。
お届けまでは約3週間いただいております。
お好きな写真や文字を自由にデザイン可能。
特別な褒章、記念品にもご利用いただけます。



QUOカード加盟店 全国約57,000店にてご利用いただけます

- セブンイレブン ・ローソン ・ファミリーマート ・サークルK・サンクス
 - ガスト ・ステーキガスト ・マツモトキヨシ ・成田本店（一部店舗を除く）
 - JXグループ（ENEOSプリカ）加盟店（一部店舗） ・JA-SS（JA-SSプリカ）加盟店（一部店舗）
 - HMV record shop ・HMV & BOOKS など [令和2年4月1日現在]
- ※加盟店の最新情報は、[欄クオカードホームページ](http://www.quocard.com/member/)をご確認ください。
ホームページ <http://www.quocard.com/member/>



●お問合せ先

(一社)日本旅行業協会正会員 観光庁長官登録旅行業第939号
株式会社農協観光 青森支店
〒030-0847 青森市東大野二丁目1-15
TEL 017-729-8800 FAX 017-729-8803

作品介绍

●令和元年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール (図画部門)



■青森県農協中央会会長賞 (図画部門第一部)
 「みごなでおんじゅうじょう」
 かんしゃして「いただきます」
 弘前市立致遠小学校 2年 相沢恋雪



■優秀賞 (図画部門第一部)
 「おとうさんがなえをつえたよ」
 十和田市立法奥小学校
 2年 漆坂漣